

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員称	博物館協議会 専門部会		
開催日時	平成24年11月15日（木） 午後5時55分～午後7時30分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	沖野部会長 北澤副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員 名取委員 花里委員 浜委員 両角委員 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷博物館係長 柳川博物館係主査		
欠席者	なし		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	1人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
若宮八ヶ岳総合博物館長	1 開会（博物館係長） これまで、展示の更新と科学教育センター・振興について提言をいただいていた、今回と次回は施設の運営に関わること、スタッフをどうするか、市民学芸員をどう育成し、組織化していくか、これからどのようにしていったら良いかを伺いたい。		
大谷博物館係長	2 第5回茅野市博物館協議会専門部会 会議結果報告について これまで開催してきた第4回の会議録について、委員からは異論がなかったので、公開していく。第5回目の議事録については、今回提示しましたので、修正などがあれば1週間くらいの間にご連絡をいただきたい。 （配布資料の確認）		
沖野部会長	3 協議 スタッフが不足していることが以前から話題に上がっているが、今回は話題にしないで、市民とともに活動していくためにはどのような方策があるのかということで、市民学芸員主体に議論していく。市民学芸員をどのように要請していくかは、組織の問題でもある。すでにボランティア的な団体が市内にあれば、どう協働していけるかということもあるので、ボランティアに関する資料を、今回用意してもらった。 信州大学のマイスターは、社会人向けの講義をして、修了したらマイスターの称号を与えるという制度がある。終了後は、大学はあまり関与していないが、マイスターの有志が自主的に活動している。内容は異なっているが、称号を与えるということで参考になるのではないかと。		
花里委員	信州大学の環境マイスターは、フィールドに出て行う実習を月1・2回行っている。後は大学がケアしない。同じ時に、マイスターを取得した人たちが連絡を取り合って共同で活動している。大学はそれを補助している形だ。		

沖野部会長	マイスターの人たちが教養部の講義で、各自 1 コマずつ担当して講義をしていると聞いた。
花里委員	マイスターの人たちが冊子を作っているが、その予算を大学が出しているかもしれない。
茅野委員	岡谷の生活環境で開催している子供エコクラブというのがあるが、マイスターの人が熱心に活動している。活動には、信州大学の大学院生が 2 人来て補助している。茅野市でも、信州大学のマイスターの人たちや、大学に協力してもらったらいいいのではないか。
名取委員	現在、総合博物館のロビーで、ミヤマシロチョウの会によるホテイランの保護活動についての展示をしているが、非常に熱心に活動している。ミヤマシロチョウの会が核になっていくと思う。富士見町ではこのような施設がない。私はアツモリ草について活動を行っているが、信州大学のマイスターを取得した人に頼んで活動している。そのように核になる人が手近にいて活動できれば良い。
沖野部会長	それが、総合博物館のマイスターであれば、もっと心強い。
若宮八ヶ岳総合博物館長	私の考えている市民学芸員のイメージは、学芸員とっているのは、学芸活動・博物館活動をしていただかなければならない。博物館活動というのは、自然の調査・研究、情報・資料収集、保管、標本などを作ってもらうようなことをしてもらうことになる。それから自然教室や観察会といった教育普及もやってもらうことになる。それを行うのが博物館である。博物館の仕事を手伝ってもらうのは、市民学芸員だ。市民学芸員を育てるには、核となる人がどうしても必要となる。ふつうは核となるのは学芸員だが、茅野は学芸員の人員が少ない。そこで、今ここにいる部員の先生方に核となってもらえれば良いと思う。核となる先生について市民学芸員に学んでもらう。月 1 回ずつ調査し、標本を作る。このような活動を通じて市民に学んでもらう。また、博物館に資料が集積されることになる。1 年たった時に成果を展示や報告書で必ず発表する。博物館の根本を市民学芸員が支えてくれるという意味合いがあると思う。そのためには、どのようにすればいいかというご意見をいただきたい。
沖野部会長	何段かの構造になっていると思う。専門的な先生はいるけれど学芸員の資格は持っていない。本来は学芸員が博物館に常駐している必要があるが、専門性を持った人を育てる必要がある。先生方を支援するかたちの市民学芸員という構造になっていくと思う。手順としては、まず核となる博物館学を修めた専門を統括する学芸員をどう作っていくか、ということが一番難しいのではないか。下部組織はすでにあるのだから、核があればつなげていけばいいのではないか。信州大学のマイスターのように博物館が主体となって、博物館学を主体に講義をする人を集めるが、この先生は外から呼び、各人たちは、博物館学を取得する形になるのかと思う。博物館がリニューアルする前にこれができることなので、講座を開設することが早道になるのではないか。大学に協力してもらってやればいいのでは。
若宮八ヶ岳総合博物館長	先生方に核になってもらい、市民の意見を聞いてもらっても、いいと思う。
沖野部会長	信州大学に博物館学を講義している人がいるはずだが。出前講義でないか。

花里委員	よくわからないが、山本先生が展示のことをやっているのです、ご存知かな。
沖野部会長	核となる人を、博物館が主体となって作り上げていく企画をすることが大事だと思う。
北澤副部会長	博物館に関心を持ってもらうきっかけをいつどんなふうに市民に働きかけるかということが大事だ。博物館としての考え方は若宮館長の言った通りで確立していると思う。どう博物館をPRしていくか。その狙いは市民学芸員として博物館で活躍してもらう人材を育成していくので、集まっていたきたいと、博物館としての学芸員の考え方を示したほうがいいのではないかな。
沖野部会長	第1弾として博物館としての講演会を開催すればよいのではないかな。意外に博物館とはこういうものですよということをアピールしていない。展示は見ているが、背景に調査・保管があることを大体の市民は知らないもので、博物館のバックグラウンドとなるものを説明するような講演会を開けばいいと思う。講師は適当な人を探してきてお願いすればよい。
北澤副部会長	総合博物館の見えないところを含めて、博物館のことを知ろうということをやると結構人が来るのではないかな。関心を起こすようなことをやりながら、今の講座と結び付ければよいのではないかな。
浜委員	初めから博物館で市民学芸員を養成していくんだということでは、人が集まらないのでは。最初は気楽に入れる形で募集していかないと集まり辛いのではないかな。
北澤副部会長	博物館に来て、博物館を知りながら茅野市の自然に親しもうとか、どのように市民に関心を持ってもらえるか、どのような呼びかけをしていくかが課題である。
花里委員	最初に扱うのは生き物になると思うが、生き物は種類が多いので、総花的になってしまう。多くの市民がどのような生き物に興味を持っているかを調べて、それを中心に立ちあげて、上手くいけば膨らんでいくのではないかな。市民の関心を調べることは必要なのではないかな。前回、観光客の話をしたが、観光客は八ヶ岳を目的に来るが、八ヶ岳の何を目的に来ているのか。観光客のニーズも聞き、その人たちもサポーターにできればどうか。
両角委員	委員の先生達が、かつて総合博物館で講演をして、私がそれを聴講して興味を広げていった部分大きい。学芸員を育てるということに固執しないで、市民に講演をした方がいいのではないかな。かつては、月に1回は小講演があった。興味を持っている人が多く、自然観察友の会もできたが、自然観察友の会は変な方向へ行ってしまった。市民に対して広げるということではなく、グループ内でまとまってしまった。学習する場を提供してもらいたい。参加していると、興味がわいて、こういうこともやってみたいなと思い、グループができるのだと思う。テーマを提示するだけでもいいと思う。
沖野部会長	資料に自然観察友の会というのがあるが、これは博物館活動からできたものか。
両角委員	そうだ。初期は小講演を聞いた中で、こういう所へ行ってみようという感じで、指導者的な人間はいるが、その人たちが市民に対して活動するわけではなく、グループでまとまってしまった。そのようなときに、良いア

	ドバイスなどを博物館の方からしてもらえればいいと思う。そうすれば、広がっていくと思う。
浜委員	自然観察友の会に47人いて、9回活動したとあるが、具体的にはどのような活動をしているのか。
大谷博物館係長	資料に載せたのは、昨年度の実績を掲載したが、主にバスを使ったツアーが9回開催された。バスツアーは茅野市内が少なく、遠方が多い。
浜委員	主に植物観察か。
大谷博物館係長	そのようだ。
沖野部会長	同好会的になってしまっているということか。このような人たちがいるので、このような人たちに意図的な講座を継続して行っていくことが必要ではないか。
名取委員	学習会員は市民が博物館をもっと利用するよという意図だと思うが、同好が集まって発展していけばいいが、方向性が間違えるとバラバラになってしまう。博物館の方向性は何かということ、地域の風土などで、博物館が、市民の人たちの生活の潤いになるように提供していくことが、学芸員の仕事だと思う。同好会的な盛り上がりをもっと博物館として茅野の総合的な風土に結び付けていくか。今まで博物館を中心に活動してきた同好会的なものを結集する努力をさらに続けて、その骨子をどうするかということ、工夫にあるのかと思う。
沖野部会長	会員募集をかけるのは良いが、集まった人をどう使っていくかのスケジュールやプログラムが希薄だったのだと思う。そのため、同好会的に活動している人たちが分散してしまっている、それを上手く使っていけば、学習会員の制度をもっと生きていくのではないか。
石森委員	浜委員が言った「呼びかけようよ」、「気軽に来てもらおうよ」、という、気軽に来てもらおう本来の目的は何かということ、子供たちに茅野市にもっと目を向けてもらおうとか、茅野市の色々な自然に関して興味を持ってもらおうということがあって、気楽に呼びかけるというのは堅い講座ではなく、子供たちに対してどのようなことを教えられるのかということの能力のある人は潜在的にいるのではないか。そのような人が集まるのは、肩肘張るとできない。ボランティア活動をしている人を一堂に集めてフェスティバル的なイベントを博物館で開催すればいい。知恵袋的に学問的かどうかではなく、経験的に学芸員のサポーター的に持っていけるのではないか。
沖野部会長	博物館にそのような企画はあるか。場所として。
大谷博物館係長	そのような企画はあまりない。講演や自然観察会は少ない。
沖野部会長	人材を発掘する上で集まるというのは重要だ。
岡本委員	ターゲットをどこに設定していくかによって、育成するシステムとプロセスが必要となっていくが、それを支えるのはある程度専門性を持ったスタッフということになる。しかし、前提となる間口を広げる専門性のあるスタッフがいないうちは、育成していく人たちを集めて、市民とのかかわりで育成していくことを考えていかなければならない。これがない状態で間口を広げて、市民の人たちが来た場合は、かなりの期間が必要だ。そのあたりをどう構想するのが課題だ。学芸員を養成するスタッフがどこまで見込めるかを考えた場合、問題だ。
茅野委員	実際に上手くいった例はミヤマシロチョウの会だ。核がいたので人が集

小池委員	<p>まってきた。その代わり、会長は職員以上に館に来ている。もう一つは子ども科学クラブで、以前は浜委員が一人で活動していた。かなり人気があり、子供が集まってきた。市民で講師をやりたいという人がいて、講師に来てもらった。やろうと思えば芽があると思う。核となる人が犠牲になる覚悟で活動しないと、人は育たない。</p>
小池委員	<p>様々な会が活動するには、核となる人の情熱が必要だ。八ヶ岳総合博物館には、ねじばなの会という機織りの会があるが、いろいろと問題はあるが、参加している人たちは自分がやりたいから活動するという事なので、自然である。同好会的ではあるが、まず立ち上げるということが重要だ。</p>
小池委員	<p>浜委員の言うように、まず興味・関心をもつことが出発点だ。いきなり、指導するとか調査・研究をしっかりやるということだとなかなか難しい。</p>
小池委員	<p>尖石縄文考古館の縄文検定で博士になった人がいるが、これがどう生かしているかを鶴飼文化財課長に聞いたかった。興味・関心と同時に資格は励みになることがあって、博物館学芸員の下で働ける人に育っていければ良い。</p>
茅野委員	<p>飯田市を見て思ったのは、歴史研究所の期限付きの職員が核となり、市民が集まるという方法もある。一つの方法ではなく色々な方向はあると思う。</p>
沖野部会長	<p>委員の意見を集約すると、まず、博物館をアピールすることが第一だ。最初は博物館が主体的に企画するほかはない。先行き、何を目的でやるかははっきりさせないと単発の講演会になってしまう。その企画は館長をはじめとして考えていく必要がある。市民学芸員は結果としてできてくるものだから、これができれば博物館の運営に役立っていけないのではないかな。</p>
花里委員	<p>自主的活動に対してのやりがいは必要だ。ミヤマシロチョウの会は、博物館が協力して本を出せばよい。それを博物館で販売すれば、会員の誇りになるし、色々な人に買ってもらえればやりがいを感じるのではないかな。</p>
沖野部会長	<p>シリーズでブックレットを作り、揃えていけばアピールになるだろう。</p>
花里委員	<p>来館した人が、このような活動をしているということが本を見て理解できると思う。</p>
沖野部会長	<p>そのようなことも含めて博物館なりの企画を立てることが大事だと思う。それぞれの会は立派に活動しているが、一緒に博物館のために何かをするという所まで至っていないと思う。どこかに中心がないとまとまりにくいだろうと思う。</p>
浜委員	<p>活動のきっかけとして、自然の色々な環境問題があり、市民活動として茅野市の自然の現状を調査して、自然に対して市民がどのように対応していったらよいかということを考えてみたいということで、呼びかけで募集して、メンバーを養成していけばいいのではないかな。</p>
茅野委員	<p>それは生活環境課で沖野部会長が行っている。</p>
沖野部会長	<p>茅野市の地図をメッシュを切って、そのメッシュの中で見た植物を言ってもらおうということを実施したが、市民参加を期待したが、なかなかうまくいかなかった。人が行かないところもあったりして、地域全体でできなかった。博物館にマップを貼り出して、そこへ来館者にどこで何を見たかを書いてもらったら良いのではないかな。</p>

茅野委員 沖野部会長	そのうち子供も一緒に出ることになって、報告してもらった。 地図として報告ができていますので、参考になると思う。なかなか長続きさせるのは難しい。
名取委員 沖野部会長	市民の日常の興味とどう結び付けるかの工夫が大事だ。 博物館の中に白地図を貼っておいてどこで何を見たかを書き込んでいけばよい。しかし、やっていることを市民に知らせることが難しい。最初は意図的にやると集まりづらい。市民の人に興味を持ってもらえるような企画を何回か続けるのが最初だ。
石森委員 茅野委員・小池委員	ミヤマシロチョウの会には名誉・称号などのインセンティブはないか。 ない。
石森委員 沖野部会長	子供にインセンティブを与えて、射幸心をあおればよいのではないか。 NHKで放送されている「撮るしん」のように、市民に協力してもらって、写真を撮ってもらい、博物館に送ってもらうような企画があれば、広く誰でもできるのではないか。そのような、センターとして博物館がある。
若宮八ヶ岳総合博物館長 沖野部会長	フィールドレポーターがいて情報を集める方向があるが、今の職員ではできない。かなりの手間暇がかかる。 ツイッターなどのように画像がなくても、いつ、何を見たかがわかれば、地図に落とすことができる。採用されればその中から市民学芸員が育っていくのではないか。
名取委員	子供は楽しみでやっているが、大人はミヤマシロチョウなどの希少種を残していくことについて、関心は高いと思う。博物館が地域の自然保護的な中心になることは実際の活動として重要で、地域としても自然保護に寄与しようという気持ちのある人がいるので、そのような人を束ねるのが博物館になればいい。
浜委員	ミヤマシロチョウの会に活動の記録はあるか。具体的にミヤマシロチョウの生態は現在どうなっているか。ミヤマシロチョウに関するデータが数字上わかるものはないか。
茅野委員 名取委員 茅野委員 小池委員	諏訪清陵高等学校の学生が以前調べたものの中に、数値がある。 ミヤマシロチョウの会で会報を刊行しているか。 出ている。 ミヤマシロチョウの会では3~4人のグループで6・7月にボランティアで監視を行っている。この時に、ミヤマシロチョウの観察を行い、データ化されている。
茅野委員	他の分野でもっとミヤマシロチョウの会のような団体ができないかと思ったができなかった。
小池委員 名取委員 北澤副部会長	ミヤマシロチョウの会には、植物が好きな人も入会している。 同好会が強くなっていくと、空中分解していく。 気楽に来てもらうアイデアをたくさん出してもらったが、集まったその次をどうするか。目的が市民学芸員を作することを前提に発言してもらっていると思うが、同好会活動を発展させるためでは困る。その後、学芸員にしていかなければならない。学芸員に関することは次の議論になっていくと思う。
沖野部会長	一番の目的は博物館をどう運営していくか。それに市民にどう関係して

北澤副部長	<p>いただくか、そのためのプログラムとスケジュールを作って、進めていく。そのことを開館までの準備段階までに作り上げていかなければならない。</p> <p>目先の目的は、学芸員をどう作るか、一番の根幹は、博物館をどのように運営していくか。そこへ行く段階の学芸員をどうするかということは、この部会で知恵を出さなければならぬ。</p> <p>この地域には資質を持っている人がいるので、このような話ができると思う。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長 沖野部会長	<p>最初に述べたことは堅いと思った。気楽に博物館に来られることが重要だ。</p> <p>素材としては同好会的なものもあるので、そのようなものをどう活かしていくか。そのプロセスを考えていかなければならない。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>地域に根差したキメの細かい活動が求められる。地域の自然情報・歴史文化をキチッと集積しなければならない。</p>
	<p>その他、委員から特に質問、意見等はなく、審議を進めることで了承された</p>
大谷博物館係長	<p>4 次回以降の開催予定</p> <p>12月6日(木) 湖東小学校・茅野北部中学校の理科実験室の視察を午後4時から計画しました。会議は午後6時からとしています。その次は12月20日(木)午後6時から開催することが前回の会議で決定されています。</p>
沖野部会長	<p>来年の1月以降の予定は12月6日(木)に決定するというところでどうだろうか。</p>
	<p>その他、委員から特に質問、意見等はなく、次回以降の日程について了承された。</p>
	<p>～午後7時30分 終了～</p>